

夏の風物詩

「なんぶ町民だんだん夏祭り」

夏を飾る恒例の「なんぶ町民だんだん夏祭り」が8月20日(土)に緑水園を中心ににぎやかに行われました。

グアムペア旅行がかかった注目のスワンポートレースには31組が参加し、湖上で熱い戦いが繰り広げられました。



まつりを盛り上げるバンドの演奏

メインステージの「なんぶ町民だんだん夏祭り」でも銭太鼓をはじめ3グループが出演し、会場を盛り上げました。途中、雨が降り出し、花火の打ち上げが心配されましたが、予定通り午後8時から打ち上げられた2000発の花火は、見物客の心を魅了し、芸術的な世界を堪能しました。

「なんぶ町民だんだん夏祭り」開催に際し寄付のご協力をいただき、心からお礼を申し上げます。

実行委員会		会長	田中耕作
町民皆様	1,	159,	944円
西伯町商工会	230,	000円	
南部町建設業協会	623,	397円	
その他個人・各種企業、団体	629,	022円	
合計	2,642,	363円	

(平成17年8月30日現在)

中学生の思いよみがえり

「タイムカプセル」

8月13日(土)に南部中学校でタイムカプセルの掘りおこしが行われました。このタイムカプセルは、昭和58年に新校舎が完成したのを記念し、当時の在校生がタイムカプセルを埋めることを思いついたもので、合計165名の思い出が埋められました。



埋めたのは確かこのあたりのはず...

埋めた当初は、西暦2000年に掘り起こす予定でしたが、忙しさも手伝い今年までのびのびになっていました。今回の呼びかけに対し、恩師も

あわせ67名が参加。実行委員長の岡田勇一さんのあいさつの後、約一時間をかけて掘り起こしに成功しました。自分のものが見つかったと当時を思い出し、久しぶりに出会う同級生と中学生の気分に戻って話が弾みました。

まちの話題

往年の名手

「天皇杯参加チーム(35年前)がスボ少と対戦」

この度、南部町体協野球部「さくら」が軟式野球界の最高峰と言われる天皇杯に、鳥取県代表として2回目の出場をすることになりました。昭和45年に西伯町体協で初出場して以来35年ぶりの快挙です。その天皇杯が地元で開催されるため、初出場の時のメンバーが、ボランティア活動について話し合っているうちに、練習試合をしようと決まりました。その挑戦を受けてくれたのが西伯スボ少少年団野球部。



名投手の球を打つぞ!

8月21日(日)午後3時、70才?を最年長とするメンバーが西伯小学校グラウンドに集まりました。当時のユニフォーム姿で登場した藤友助役を始め全員が青春時代に返り楽しみました。年齢を省みないハッスル振りに、父母もわが子の活躍を置いて往年のプレイヤー?を心配そうに見ておられたのが印象的でした。

試合後にはみんなで天皇杯を盛り上げることを誓いました。

魚にやさしい田んぼづくり

～生きもの調査～

水田周辺の水域の生態系の現状を把握するため、「田んぼの生きもの調査2005」が8月5日に境内内のほ場整備された排水路で行われました。（県内では5か所で実施）この調査は、農林水産省が主体となり平成13年から行っています。

調査には、会見小学校の4・5年生11名が参加し、米子地方農林振興局の職員の指導のもと、3班に分かれて水路を調査しました。採取の結果、フナやハエなど14種類の生物が見つかり、参加した西村あずささん（5年生）は「川にも入れたし、魚も取れて楽しかった。」とタモを片手に話してくれました。

この調査で得た資料をもとにして環境に配慮した水田作りを農林水産省では進めています。



取れた魚の大きさを測ります



なかよくトランプを楽しみました

見とくこ

知つとくこ

日々好日

みんなの南部

楽しくふれあい

～ボランティア体験～

夏休みの期間を利用して、ボランティアの体験をしてもらおうと社会福祉協議会が小・中学生にボランティア募集をしたところ、小学生15名、中学生45名が参加しました。参加者は、町内の5か所で在宅福祉サービスやデイサービス、弁当配達などを行いました。目が見えにくくなるメガネや耳栓、足におもりをつけたりといった不自由な体験や車椅子の安全な使い方など初めてのことに戸惑いながらも元氣よくボランティア活動を行いました。

潮駿太郎君（5年生）は「2日間楽しく体験できました。もっとお年寄りに親切にしたいと思います。」と感想を話してくれました。

介護を学ぶ

～百人委員会研修～

今年6月、国会で改正介護保険法案が成立し、来年度から実施となる制度について、8月8日（月）鳥取県長寿社会課長の三好圭氏を迎えて、勉強会を行いました。

今回の大きな改正点は、介護予防に重点を置く点、施設入所者は食費や居住費を利用料として支払う点などです。介護予防は新予防給付として、筋力トレーニング、栄養改善、口腔ケアなど、個人が自分らしく生活していくための細かいサービスが利用できるようになります。

また、一定のエリア内に包括支援センターが設けられ、骨折予防教室、住宅改修アドバイスなど、必要度に応じた、個人がより専門的に支援してもらえる体制ができ上がります。何歳になっても健康で元氣な長寿社会を目指しましょう。



制度改正を学びました